

地域福祉計画策定 吉岡地域懇談会 会議録

◇日 時	平成 21 年 10 月 19 日 (月) 午後 6 時 30 分～午後 9 時 00 分		
◇場 所	吉岡生活改善センター		
◇出席委員	委 員 小笠原 実 (他 9 名)		
◇説 明 員	町民課長 鳴海 清春	参 事 澤田 勝男	総括主査 坂口 稔
	総括主査 工藤 泰	主 査 木村 正幸	主 査 星野 優司
	委 員 福井 理央		
◇一般参加者	14 名		
◇ぎょうせい総合研究所	黒澤主任研究員 阿部営業課長		
◇欠席委員	6 名		

開 会 (午後 6 時 30 分)

○町民課長 (鳴海清春)

皆さんこんばんは。それでは、福島町地域福祉計画策定に伴う吉岡地域懇談会について始めさせていただきます。

今、町内が高齢化・一人暮らしが多くなる中で、地域として、そういった方々をどう支えていくかということで、地域福祉計画というものを来年の 3 月まで取り上げていきます。今日、参加いただいている方は、そういった計画を作る策定委員会において、福祉や医療関係の方々が中心となってまとめ上げていきます。今回は、地域に入ってお話を聞こうということで、吉岡 1・2・3 の町内会長さんにご無理を言って地域懇談という形でこういう場を設定させていただきました。本日は、役場の説明会とは違しまして、皆さんで作業しながら、例えば明日ひとりになったら困ることや、そうなった時にしてほしい要望だとかを出し合って、最終的には 3 月までにまとめ上げて計画に組み込んでいきたいと思っていますので、一言二言で構わないのでご意見いただければと思います。

それで、東京から仕事のお手伝いをしていただいている、ぎょうせい総合研究所の黒澤さんが見えておりますので黒澤さんの進行でお願い

したいと思います。よろしくお願いいたします。

○黒澤主任研究員

皆さんこんばんは。東京から来ました黒澤と申します。よろしくお願いいたします。今日は、机の上に置いてあるのでお気づきかと思いますが、模造紙に皆さんの思いを表現していただいて、その声が役場に届けばいいなと思っております。よろしくお願いいたします。

では、配布している資料の確認からお願いします。(資料 1～4 が手元にあるか確認)

では、資料 1 福島町地域福祉計画策定についての説明をさせていただきます。1 ページを見てもわかるように福島町の人口は減少していき、高齢化も進んでいます。皆さんご心配の一人暮らしの高齢者は平成 2 年から、平成 20 年までで比べると 273 人から 395 人ということで、相当数増えています。高齢者が増えると当然、平成 12 年から始まった介護保険制度で認定されている要介護認定者は平成 12 年の 192 人から、平成 20 年の 302 人ということで、1.5 倍増えています。そして逆に子どもの人数は、平成 2 年の国勢調査で 0～14 歳で 1,585 人だったのに対し、平成 20 年では 414 人に減っています。一人暮らしや要介護認定者、あるいは子どもの問題や障害がある人など、支援が必要な人たちが確実に、福島町だけではなく全国で増えているのが現状です。

皆さん、自助・共助・公助という言葉をご存知でしょうか。自助というのは、自分のことをしっかりと自分が考えて行動すること。公助というのは、福島町役場や、道から受けられる公的なサービスのことを指しています。共助というのは、隣近所や学校・保育所・ボランティアなどを指しています。この共助の部分の方針を決めていこうというのが今回の地域福祉計画とされています。福祉の心が、或いは福祉が福島町に根付いていく福祉文化と言いますが、そういう町を実感できるように計画を立てたいと思っています。4ページを見て下さい。この計画を作るにあたって、今年の8月から9月にかけてアンケートを取らせていただきました。1,000人の住民を対象にして、549人の方から回答がありました。

では、アンケート回答の結果を報告いたします。

(資料1とパワーポイントで説明)

■問：これからの福祉はどうあるべきか

■一番多かった回答：福祉や地域のことは、行政も住民も協力し合い共に取り組むべき(71.2%)

■次に多かった回答：地域の人が互いに協力し住みやすい地域にしていくべき(47%)

行政だけではなくて、地域の助け合い或いは地域と行政と住民が助け合うということが必要なんだということを大半の方は考えられていると言える。

■問：地域で協力したほうがよいと思うこと

■一番多かった回答：災害時の避難・救助や防災対策(64.3%)

■次に多かった回答：ひとり暮らし高齢者の見守り活動(50.3%)

■問：日常の暮らしの中でどのようなことに困っていますか

■一番多かった回答：困りごとは特にない(44.

3%)半数には達しなかったという状況。

■次に多かった回答：雪かきや屋根の雪おろし(22.2%)

一人暮らしの高齢者については、雪かきや屋根の雪おろし、重い物の運搬、高い所の電球交換などが一般の回答より多く、より困っているという結果が出た。

■問：近所や地域の中で手助けできることはありますか

■一番多かった回答：あると思う(82.7%)
8割以上の方が手助けできると答えている。

■問：具体的にどのような手伝いができるか

■一番多かった回答：話し相手をする(48.2%)

■次に多かった回答：ごみ出しを手伝う(37.7%)
重労働ではなく、比較的だれでもできるような項目が挙がっているという結果になった。

■問：近所の支え合い活動の発展に必要なこと

■一番多かった回答：困っている人と助けられる人を結ぶ組織を充実するべきだ(51.2%)

■次に多かった回答：地域で行っているさまざまな活動内容について情報提供を充実するべき(48.6%)
地域での助け合いや支え合いの大切さをPRするべき(45.2%)
学校教育や社会教育などを通じた福祉教育を充実するべき(41.0%)

という様に、沢山の項目に回答する方が多い。この項目は、全て地域福祉計画に盛り込むようにと、国の方で決められている。(地域福祉計画は、社会福祉法という法律で定められている)

次に、資料2を見て下さい。これから皆さんで行うグループワークと言って、皆で意見を出して、まとめていく作業の説明をさせていただきます。まず、4つのテーマについて概略を説明いたします。この4つのテーマは、社会福祉

法で定められている3つの項目と、国の通知に基づき加えた、災害時などを想定し要援護者の支援方法を盛り込むこととした問題の視点と、8月に行った、福島町安心生活創造事業推進及び地域福祉計画策定委員会内のワークショップ時に出た、地域で気になること（資料4参照）を混ぜて考えたのが、この4つのテーマになります。

（資料3とパワーポイントでテーマの説明）

□テーマ①サービスを豊に利用するための情報・相談

□考えること：ふくしま広報や介護保険パンフレット等、町や道でこのようなサービスがあるという情報を伝える手段だが、果たして皆の必要な所に届いているのだろうか

□アンケートから見えたこと：情報収集は、広報ふくしまや回覧板から得ている人が圧倒的多数。しかし、60歳代に関しては利用する可能性があるデイサービスや緊急通報システムも知らない人が多い。果たして誰にでも伝わりやすく出来ているのか。

□テーマ②地域のきずな

□考えること：地域のきずなを深めるためにはどうしたら良いか

□アンケートから見えたこと：どんなことでも気兼ねなく相談し、助け合うことができる（6.7%）は数値としては低く見えるが、他町と比べると、高い。年代別で見ると、近所での助け合いが当然とするのは60歳代、挨拶する程度でかわりたくないは40歳未満が多い。

□テーマ③安心安全な暮らし

□考えること：災害時の要援護者の問題、地域の犯罪・防犯の問題

□アンケートから見えたこと：災害が起こったどのように行動するのか、わからないとする人が多い。災害時に避難ができない理由は、避難場所がわからない方が4割を超えて最も多い。

□テーマ④ボランティア

□考えること：ボランティアをもっと増やすためにはどうしたら良いか

□アンケートから見えたこと：福祉に関心がある人が多いのに、ボランティア活動も地域活動も何も参加していない人がいる。

それでは、グループワークを始めましょう。

（4班編成により、グループワークを行う）

◆グループワークの進め方◆

1. グループワーク準備（約10分間）

・班内での自己紹介、リーダー、記録係、発表者、進行係の決定。

・テーマの選定（時間短縮のため、黒澤主任研究員にテーマを各班に振り分けてもらう）

・模造紙のレイアウト作成。

2. グループワーク前半（約20分間）

・「わがまちがめざすこと」の話し合い、作成。

・目標達成に向けて「問題なこと」について話し合いポストイット作成、整理して記録係が模造紙に記入。

3. グループワーク後半（約20分間）

・「問題なこと」を地域で解決するために、今後の取組への提案（優先順位をつけて）を話し合い、模造紙を完成させる。

4. グループワーク発表

・各班ごと発表者が模造紙を見ながら発表。

◆発表内容◆

○1班（やまゆり）

テーマ③安心安全な暮らし

●目 標：みんなで協力して、いざという時のために備える町

●問題点：各地区の避難場所が明確でなく、避難場所が記載された地図がない。要介護者の避難用具が無く、要介護者等を町内会に周知させるなど体制への連絡網がないなど、安全に暮らす種々の体制づくりが不足している。

●解決策：避難用具や避難施設の整備。地区ごとの避難訓練が必要。ボランティアを募り、地区での支援体制をつくる。

他班からの指摘：避難場所が記載された地図は、広報を活用してはどうか。

○2班（福&福）

テーマ④ボランティア

●目 標：全住民（特に若者）がボランティアになる町へ

●問題点：若者の福祉への無関心。ボランティア時に発生した事故・怪我への保険制度の導入がない。全国共通だが、同じ人がいつも活動している。ボランティアをする側と受ける側での円滑な人間関係を築きたい。ボランティア活動の具体的な中身（公的なボランティアと私的なボランティアの違い、ニーズの把握）

●解決策：ボランティアのポイント制度（ボランティア点数券を作成し、ボランティア発生時に両方で券のやり取りをする）の導入はどうか。ポイント制度の存在によってボランティアをした証にもなり、全町民の意識の高まりにも繋がるのではないか。

○3班（秋桜）

テーマ①サービスを豊かに利用するための情報・相談

●目 標：情報を必要とする人の立場に立った情報提供と、自ら知るための努力・工夫をしよう！

●問題点：防災無線が聞こえにくい。広報・回覧を読んでも、いざとなったら忘れてしまう。温泉バスやゴミ処理表がわかりにくい。何か相談したくても、相談場所がわからない。

●解決策：資金・時間はかかるかもしれないが、個別受信機を各戸設置したら効果は大きいと思う。資金の一部自己負担も検討しなければならないのでは。

広報・回覧は個々できちんと管理し、読み返したり忘れない様、カレンダーに予定を記入する

努力をしたらどうか。もっと、お年寄りが読みやすいよう工夫をしていただきたい。バス時間表等は、各地区の表を作成して配布したら分りやすいのでは。相談ごとは、社協や役場もあるが、地域で日常的に色々な話ができるような人付き合いをする努力も必要だ。

○4班（ひまわり）

テーマ②地域のきずな

●目 標：挨拶は基本

●問題点：困っていることの相談場所が分らない。ふれあい教室などの参加人数を増やしたい。人と人との付き合いが難しい。

●解決策：吉岡地区は、大人と子供の挨拶はよくできているが、今以上に声かけをしていくことで、地域のつながりが更に出るのでは。地域の世話をしてくれる人や、連絡の媒体を作っていくことが必要。役場内で予算を持って、人を育て地域を豊かにしていただければ、地域のきずなができていくのではないか。

○黒澤主任研究員

とてもいい意見が出たと思います。長時間にわたりご協力ありがとうございました。

○町民課長（鳴海清春）

皆さんお疲れ様でした。今回出た意見をベースにし、来年の3月を目途にまとめ上げますし、広報でも報告いたします。本当に、ありがとうございました。

閉 会（午後9時00分）
